

春日井の河川と用水

地蔵川



JR勝川駅北口を出て、西に500mほどいったところに、瑞雲山地蔵寺がある。今では大相撲名古屋場所の宿舎にもなる寺である。ここから南南西に約1.5kmの所、勝川町一丁目である地藏川の南側に地藏ヶ池公園と勝川天神社があり、地藏寺は元々この地にあった。

里伝によると、この地藏川から地藏尊が発見されたのが文永年間(1264~1275年)であり、このことが由来となって地藏川の名前が付けられ、地藏尊を祀った寺を地藏寺と言った(開山無盡道證禅師の墓塔)。地藏川は、この辺りでは大きな池になっていて、その姿は昭和30年代まで保っていた。JR勝川駅前の勝川郷土料理を出す水徳のHPによれば、この池では「天然の鰻やふな、シラハエ」がとれたとのことである。この川は、当時は、地藏ヶ池の下流はほぼ真南に向かい、八田川とともに庄内川に流入していた。しかし、度重なる洪水を避けるため、JR中央線をくぐ



地藏川 トンネルの上が八田川

ってから西へ流れる地藏川の流路を100mほど北側に付け替え、八田川と立体交差させた。そして、ここから新地藏川と名前を変え、新川に流れ込むように改修されて、今の姿となった。

この地藏川を上流にたどってみる。まず、国道19号とJR中央線、国道302号の下をくぐり、JR勝川駅の南側に出る。そのままJR中央線と並走し、王子製紙の北側に出ると、流路を北側に変えJR中央線をくぐってから再びJR中央線と並走。JR春日井駅の北を通り過ぎ、林島町の辺りでさらに北へ向かい、篠原小学校の北に出て、下市場町に達している。東名高速道路をくぐり、旧19号



地藏川の水源 金ヶ口池

(県道内津勝川線)をくぐると、水源の金ヶ口池にたどり着く。

この金ヶ口池は北城小学校のすぐ東側に位置するため池である。

『春日井市史地区誌編別巻』によると、下市場のため池であり、付近の田畑を潤していたとある。寛政年間に描かれた村絵地図(近世絵地図地区誌編2)によると、金ヶ口池とともにその流路がすでに描かれていることがわかる。

この地藏川は現在でも水害との戦いが続いている。平成3年の台風18号は県内のあちこちに大きな被害をもたらしたが、本市でも篠原小学校のすぐ西側で内津川の堤防が決壊し、大きな注目を浴びた。実はこのとき地藏川も溢れていた。近くでは、平成23年の台風15号で、八田川の堤



地藏川放水路 この先に内津川

防を越えた水と地藏川から溢れた水で、特に立体交差付近からJR中央線の辺りまで大きな被害が出た。

愛知県と春日井市も懸命に対策に乗り出している。まず県が、地藏川が篠原小学校の北側から南側に行く内津川への放水路を平成21年に完成している。また、春日井市は流域に点在する学校や公園の下に貯水池を順次整備している。そして、さらに、平成30年度から、県が八田川の拡幅工事と地藏川の水をくみ上げ八田川に排水するポンプ場の建設に取りかかっているところである。

これらの施策によって、洪水等の被害は減っていくと思われる。しかし、気象庁の発表では、日本各地で何十年に一度の大雨が観測されていることから油断はできない。これら由来や被害の記録は語り続けていく必要があるだろう。

(春日井郷土史研究会 富中)